



第1回 丘珠空港周辺地域連絡協議会



令和5年6月29日
札幌市空港活用推進室

目次

1

- 1 協議会の設置(案)
- 2 調和と共生に向けた取組(案)
- 3 情報提供



1 協議会の設置(案)



連絡協議会の概要

名称

会則第1条

丘珠空港周辺地域連絡協議会

目的

会則第2条

丘珠空港の機能強化や空港周辺の賑わいの創出等に向け、周辺地域と札幌市が一堂に会し、空港と周辺地域との調和と共生に向けた情報共有及び意見交換を行うこと

活動

会則第3条

- (1) 空港の機能強化検討に関する情報共有
- (2) 空港周辺の環境配慮に関する意見交換
- (3) 空港周辺地域の賑わい創出に向けた意見交換
- (4) その他目的の達成のために必要な活動

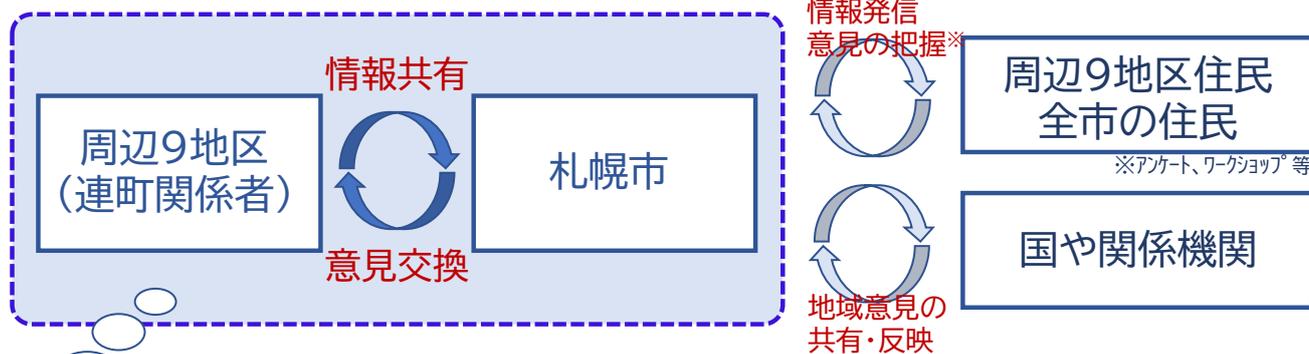
組織・構成員

会則第4条、第5条

丘珠空港周辺地域(9地区、11連合町内会の推薦者)と札幌市(空港活用推進室)



丘珠空港周辺地域連絡協議会



【協議テーマ・取組の想定】

- 空港周辺のまちづくりの方向性やロードマップ
- 環境配慮の取組(騒音調査等)
- 賑わい創出に向けた取組(空港ビルの機能拡充、緑地の活用、交通アクセスの改善等)

地域・市民のニーズを踏まえた空港及び周辺まちづくりの推進

協議・取組のステップ

○ 「共有」、「協働」、「成熟」の3ステップでまちづくりを推進

共有段階	協働段階	成熟段階
関係者が認識を共有し方向性を構想	構想の実現に向け、関係者が各立場・役割のもとで取組を推進	賑わいの維持・向上に向け継続的、発展的な活動を育む
<p>意見やニーズの把握</p> <p>仮称) まちづくり構想の策定 (目標・課題・取組の方向性等を可視化)</p>	<p>丘珠空港周辺地域における取組のイメージ</p> <p>構想の具現化</p>	

ニーズの把握や参加者の認識等の共有に向け、意見交換等を実施

2 調和と共生に向けた取組(案)



周辺地域の概要～人口・面積～

対象地区

○右図の9地区11連町

9地区の人口

○約13万世帯、26万人
(令和4年7月時点)

9地区の面積

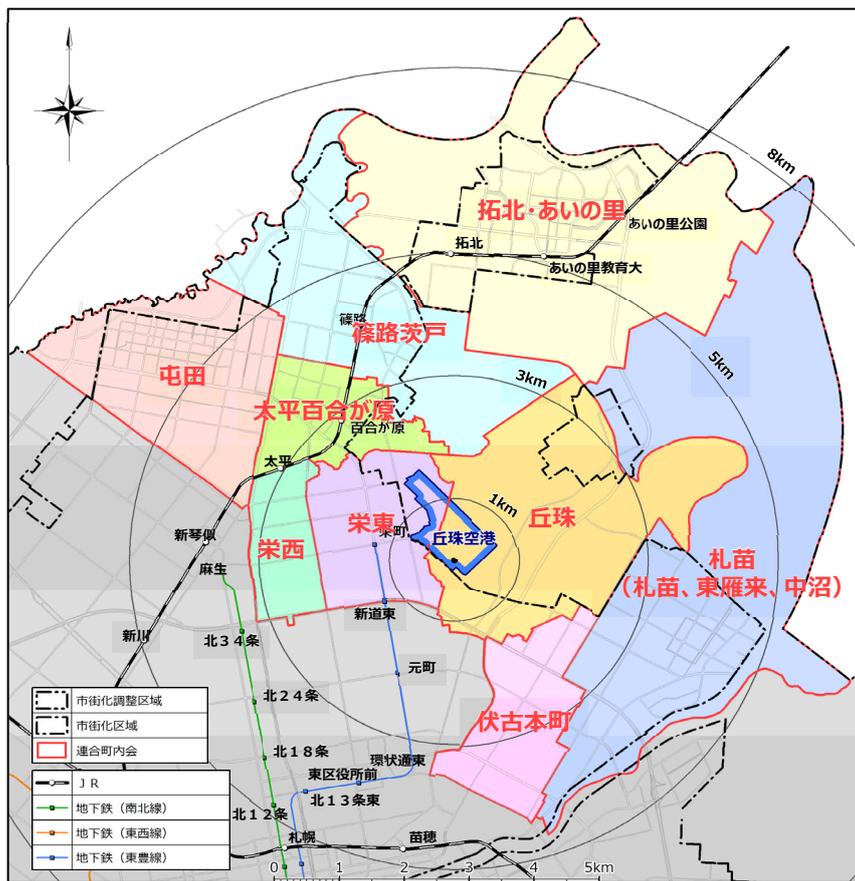
○約8,500ha

範囲が広く、空港からの
距離や生活圏も様々

【参考】

まちづくり計画の策定などが進められている
市内他地区の面積

新札幌	真駒内	篠路
約36.6ha	約5ha	約5.1ha (東口)



都市機能誘導区域

○篠路駅周辺 ○栄町駅周辺

医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域。

集合型居住誘導区域

○篠路駅周辺 ○伏古本町の一部、
○栄東の地下鉄沿線 ○栄西の一部

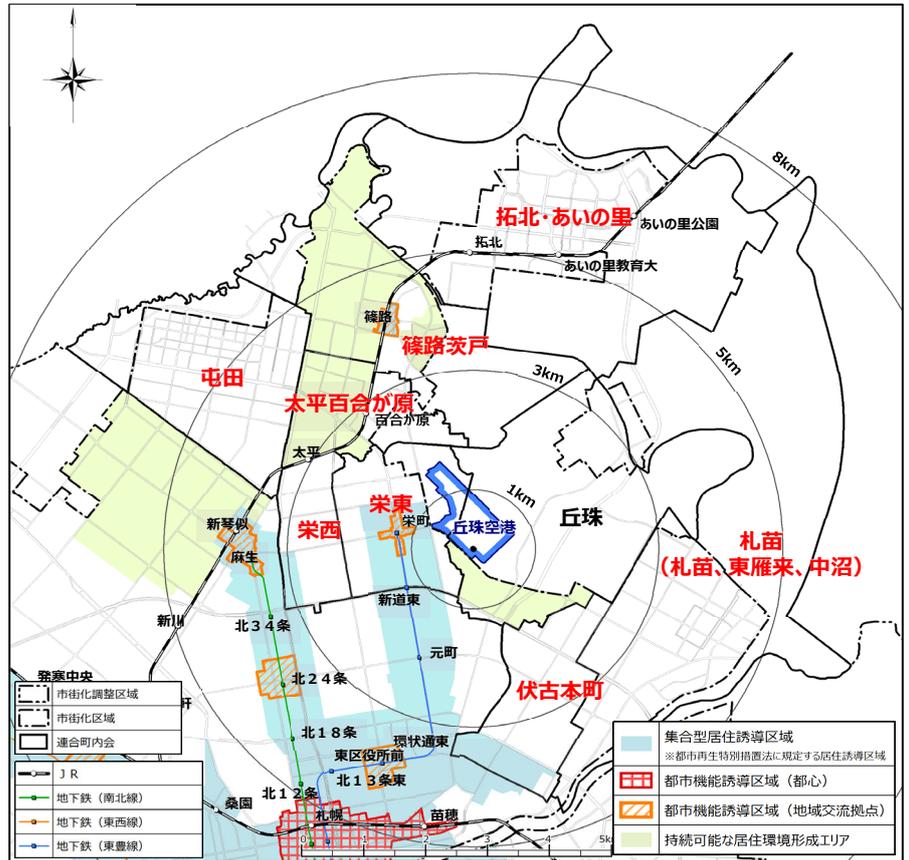
人口分布の偏在を是正しつつ人口密度の維持・増加を図るため、土地の高度利用を基本とした集合型の居住機能を集積する区域。

持続可能な住環境形成エリア

○篠路、○太平百合が原、○丘珠

生活・交通利便性を確保しつつ、持続的な地域コミュニティの形成を目指すエリア。人口減少速度が速まることが予想されるが一定の居住需要が継続的に存在

丘珠空港周辺について、都市機能の集積を視野に、「高次機能交流拠点」への位置付けを検討中(第2次まちづくり戦略ビジョン)



丘珠空港の概要

丘珠空港施設配置



就航路線(2023夏ダイヤ)

○道内5路線、道外4路線が就航中



空港ターミナルビルの主な施設

札幌いま・むかし・探検広場



©札幌丘珠空港ビル(株)HP

丘珠キッチン



スカイショップおかだま(売店)



※2023年5月移転リニューアル



目指す将来像

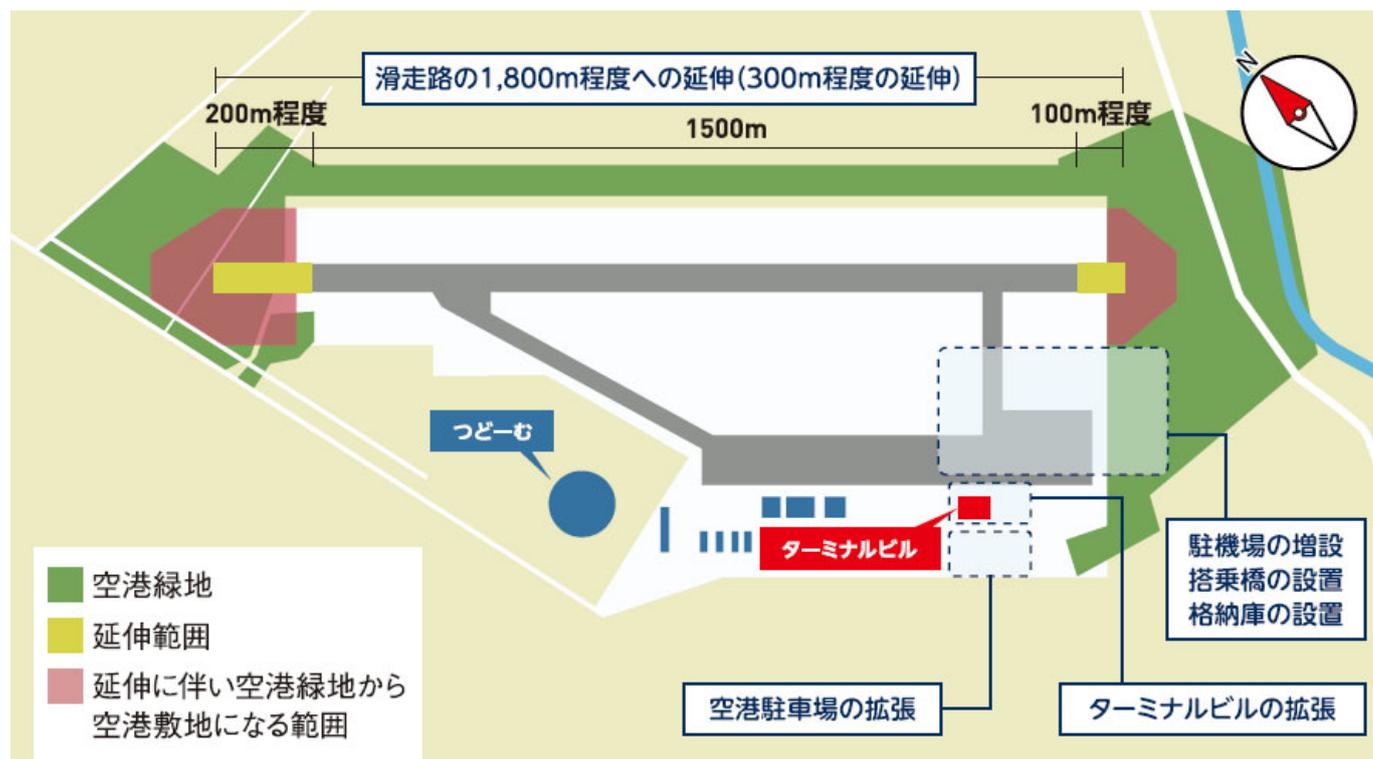
一年を通じて道内外との路線を展開することにより、市民・道民の安全・安心な暮らしに寄与するとともに、多様な交流を支える広域交通拠点となる空港。

将来像実現に必要な取組

- 1
滑走路の
延伸
- 2
空港運用
時間の拡大
- 3
路線の
拡充
- 4
ターミナル
機能の強化
- 5
商業施設等の
拡充
- 6
空港への
アクセスの
充実
- 7
医療・防災機能の
強化
- 8
周辺地域との
調和と共生



空港整備イメージ ※市の想定



空港と周辺地域の共生に関する方針

環境への配慮

騒音調査を行いながら、環境基準を超えない範囲内での運航便数となるよう取り組んでいく

- 騒音調査
- 丘珠空港緑地の緩衝機能の維持、レクリエーション機能の確保 等

空港周辺の賑わいの創出

地域住民の意見を取り入れながら空港周辺の賑わいの創出等に取り組んでいく

- 空港ターミナルビルへの商業施設等の設置
- 交通アクセスの改善
- 空港周辺に求められる機能の検討 等



取組期間

将来像策定から概ね10年後を目途に、将来像の実現に資する機能を有する空港となることを目指す。



環境への配慮～騒音調査の概要～

測定対象

丘珠空港に離着陸する全ての航空機(自衛隊機含む)の飛行騒音及び地上騒音を測定

測定時期

民間航空機の離発着が多い時期(夏期)に、年1回、7日間連続で実施

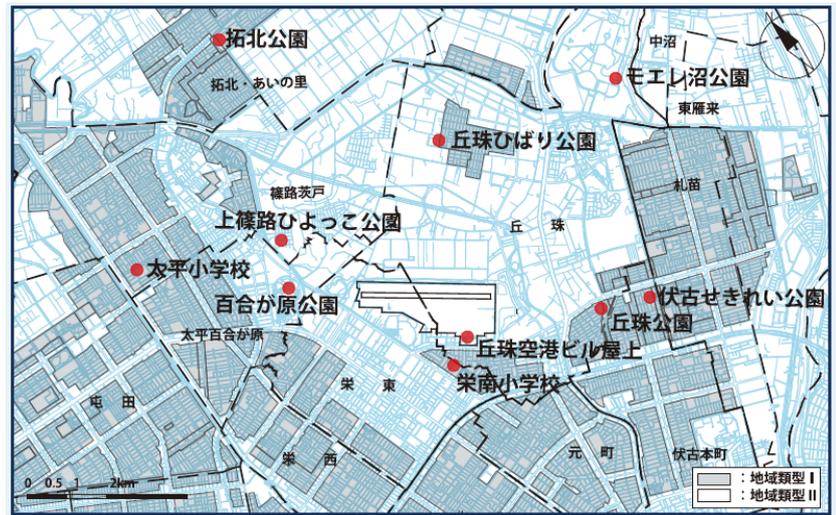
測定位置

2017年以降は、空港を囲む形で、右図の位置にて実施

測定方法

航空機騒音測定・評価マニュアル(環境省)に規定の方法で実施

■調査位置図

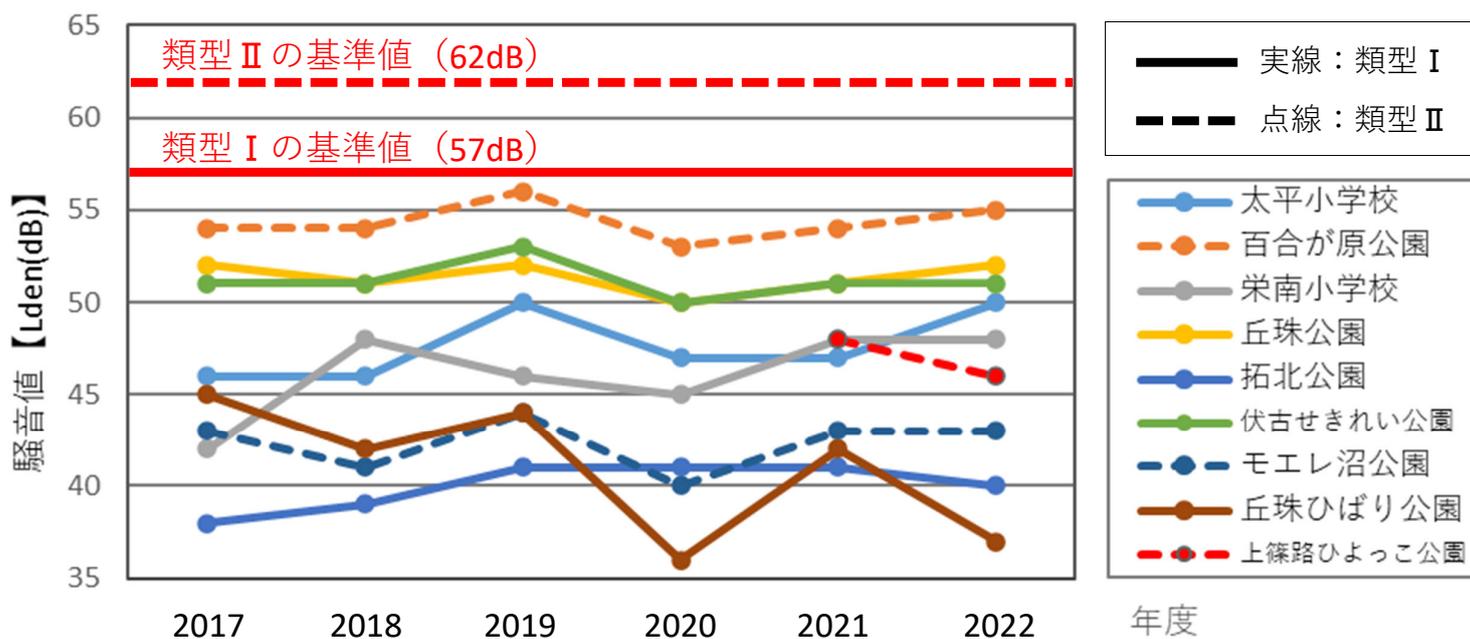


■地域の類型と環境基準値

地域の類型	該当地域 [丘珠空港を中心とした 半径約5kmの地域]	環境基準値 (Lden)	地域の類型	該当地域 [丘珠空港を中心とした 半径約5kmの地域]	環境基準値 (Lden)
I	専ら住居の用に供される地域 ・第一種低層住居専用地域 ・第一種中高層住居専用地域 ・第二種低層住居専用地域 ・第二種中高層住居専用地域	57dB 以下	II	I以外の地域であって 通常の生活を保全する 必要がある地域 ・類型I及び 除外地域以外の地域	62dB 以下



騒音値の推移



年度により増減があるものの、全ての地点で基準値以下となっている。

調査の継続と情報発信

騒音調査を継続し、結果をよりわかりやすい形で情報発信。



■騒音調査実施状況例

追加調査の実施

騒音値をより詳細に把握するため、夏期以外の時期にも調査を実施。

騒音値の予測と運航調整

調査結果等をもとに、今後の増便時における騒音値を予測し、環境基準値を超えないよう、予測を踏まえて運航便数を調整。



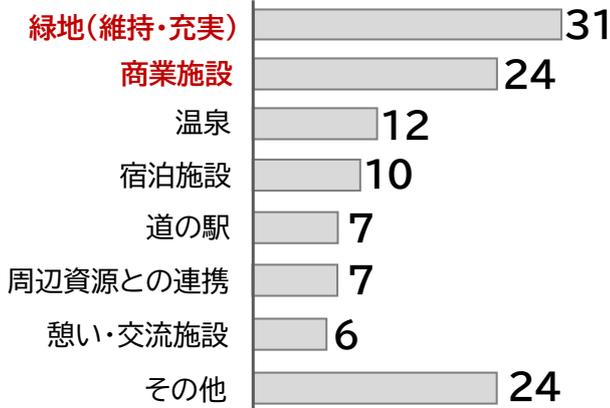
■騒音予測カウンター図(参考)

©札幌市、ファドリームエアラインズ、2017年

市民意見の概要

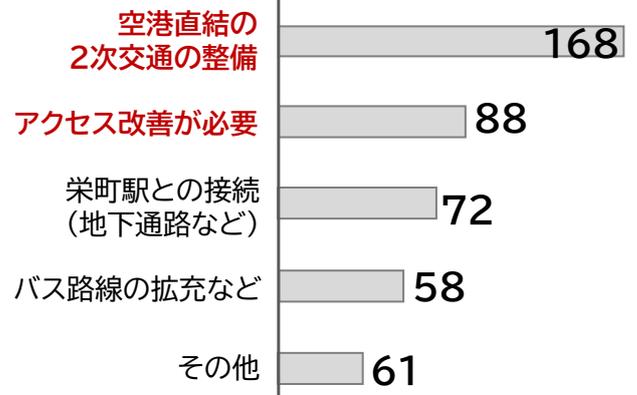
～2022年 意見交換会・パブリックコメントより

周辺に求める施設・機能について



※周辺の施設・機能に関する具体的な言及があった意見の数

交通アクセスについて



緑地の維持・充実や、商業機能(飲食・物販等)、温泉・宿泊施設などの意見が多い

地下鉄など空港直結の2次交通の整備や、栄町駅との接続、バス路線の拡充などの意見が多い



他空港周辺の事例

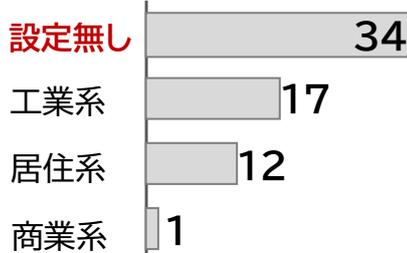
■調査概要(2022年、空港活用推進室調べ)

○対象:離島空港及び海上空港を除く、国内52空港

○内容:空港周辺の「用途地域」と「周辺施設や交通アクセス」

■調査結果

空港周辺の用途地域



※空港数

主な周辺施設



※施設数

交通アクセス

○鉄道直結の空港
7空港

○高速道路直結の空港
4空港

周辺に都市機能が集積された空港は多くはない

➡空港は郊外に位置するケースが多いことや、空港によってはターミナルビル内の商業施設が充実していることなどが一因と推察



賑わい創出の基本スタンス

○賑わいは、多様な人の往来、交流、活動などにより生み出されるもの

➡「空港機能の強化」と、それによって見込まれる「交流人口の増加」をきっかけとし、市民の意見やニーズを踏まえながら、空港を核とした賑わいの創出に取り組んでいく



取組① 空港ターミナルビルの機能拡充

現状

- 航空機の年間搭乗者は、ビジネス層を中心に約32万人(2022)
- ビル内の施設は限られており、航空機利用以外の来場は多くない



札幌丘珠空港ターミナルビル

取組の方向性など

■ 目指す方向

- 年間搭乗者数 100万人を目指し、道内外に路線を展開
- 航空機利用者の利便性向上に加え、航空機利用者以外の方も気軽に訪れ、利用できる(利用したくなる)ビルを目指す

■ 空港ビルについて

- 利用者の増加を見据え、床面積を拡張
- 「商業施設」や「住民利用施設」等の機能を検討
- ビルの拡張方法や場所、面積等は現状未定(今後国が検討)

地域の皆さまが利用しやすい、利用したいと思う空港の機能や施設についてご意見をいただき、今後の検討に反映



他空港における整備事例(参考)

■ サイクルステーション



釧路空港 ©TABIRIN

■ 空港を道の駅に



大館能代空港 ©まいにち・みちこ (東北道の駅公式サイト)

■ 足湯



大分空港 ©やじり鳥

■ 蛇口からポンジュース



松山空港 ©松山空港ビル株式会社

■ 商業施設



伊丹空港 ©関西エアポート株式会社

■ 行政サービスセンター



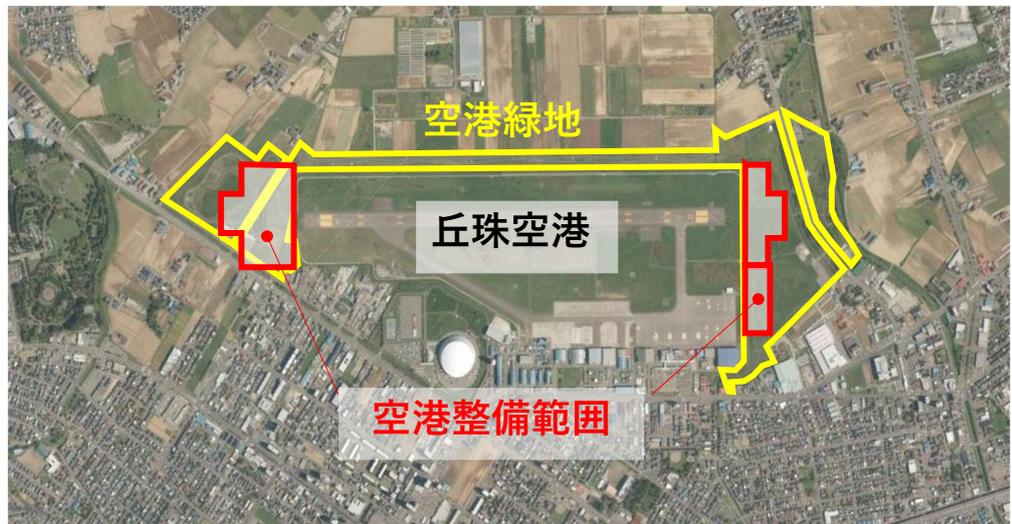
能登石川空港 ©石川県



取組② 緑地機能の確保と賑わいの向上

現状

- 今後の空港整備により、南東・南西緑地の面積が減少(右図赤枠想定)
- 緩衝機能(騒音・風)やレクリエーション機能(遊具やランニングコース等)の確保に向けた対応必要



取組の方向性など

- 緑地に対するニーズの把握
面積が減少する中においても、緑地の機能維持は必須。
今後の緑地の在り方について、協議会やワークショップなどで議論しニーズを把握
- 賑わい創出に繋がる機能等の検証
緑地の機能を維持しつつ、空港周辺の新たな賑わい創出(市民の交流促進や集客性の向上等)にも繋がる緑地や公園の活用や整備等について、ニーズを踏まえ検証



他都市における公園整備の一例

～民間資本による公園整備事例が多くなっている

○カフェ・スポーツクラブなど 新宿中央公園芝生広場(東京都新宿区)



新宿中央公園芝生広場(東京都新宿区) ©新宿区

○レストラン



駒沢公園(東京都世田谷区)
©project.nikkeibp.co.jp

○グランピング



長井海の手公園(神奈川県横浜市)
©project.nikkeibp.co.jp

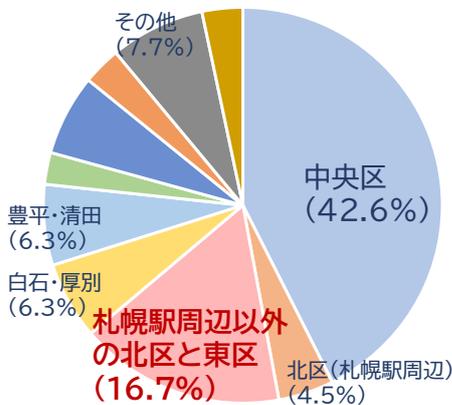


取組③ 交通アクセスの改善(直近)

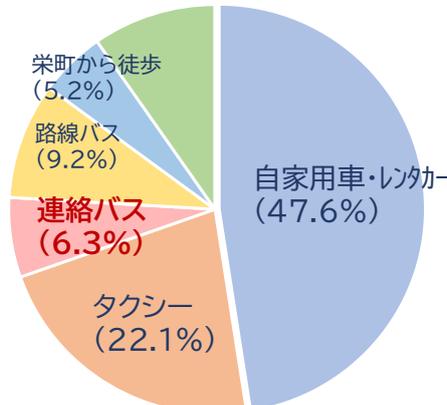
現状～2次交通アンケート

○調査時期:2022年12月(冬期ダイヤ) ○調査対象:丘珠空港からの出発便搭乗者
○調査方法:機内アンケート →2,092人から回答入手

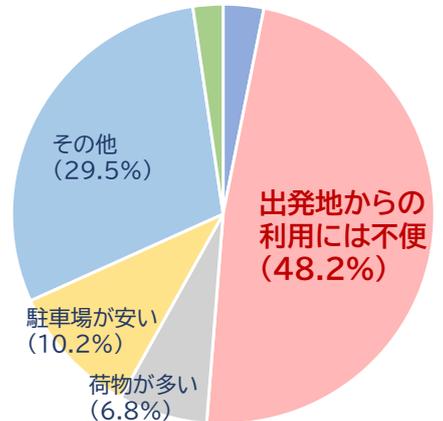
■ 出発地 (全体)



■ 空港までの交通手段 (北区・東区)



■ 連絡バスを使わない理由 (北区・東区)



北区(札幌駅周辺以外)と東区からの利用は、中央区に次いで多い。

北区(札幌駅周辺以外)と東区からの交通手段は、自家用車・タクシーが中心。連絡バスの利用は少ない。

空港周辺の北区・東区から、栄町駅までのアクセス性に課題があると推察される。

直近における対応

- 当面は「バスアクセスの充実」を念頭に検討(丘珠空港の将来像より)
- ➡アンケートでは、「出発地からの利用には不便」との声が多かったが、
どの程度需要があって、どこから発着すれば需要に応えられるのか?

取組の方向性など

- 需要・ニーズ調査
 - ①搭乗者アンケート第2弾の実施
札幌駅から連絡バスがでている夏期に実施し、昨年度のアンケートを補完
 - ②空港周辺住民を対象にしたアンケートの実施
- 実証実験
 - ➡①、②の結果をもとに走行ルートを設定し、発着便にあわせた
連絡バスの試走により、実際の利用頻度等を検証(年内)



地域協議及び取組のロードマップ

■空港整備の進捗と地域ニーズを踏まえながら、取組を推進



3 情報提供



空港機能強化に関する検討状況

丘珠空港機能強化検討会

○国(国土交通省、防衛省)、北海道、札幌丘珠空港ビル(株)、航空会社などと、丘珠空港の機能強化に向けた検討を実施(2023年3月以降、検討会を5回開催)

○検討テーマと主な意見、方向性は以下のとおり

■今後の増便に伴う対応

○発着枠の調整やダイヤの平準化、陸自の訓練時間の確保などについて協議

■空港運用時間の拡大

○管制体制の強化検討や、騒音予測の実施、周辺住民への情報提供などに取り組んでいく

■除雪体制

○滑走路延伸後の除雪体制の在り方や必要な除雪機材の確保等について検討

■空港ビル機能強化

○空港ビルの他、駐機場、駐車場の拡張等について、周辺地域のニーズを踏まえながら緑地の活用の可能性も含め検討

■2次交通

○公共交通の利用促進に向け、バスアクセスの充実や駐車場運用の在り方、デマンド型の交通サービスなどを検討

■新千歳空港との役割分担

○補完と分担の関係を目指し、連携して路線誘致やPRに取り組む。



- 本日 第1回地域連絡協議会
- 8月頃 空港周辺を対象にしたアンケート調査
- 10月頃 空港周辺を対象にしたワークショップ
- 2月頃 第2回地域連絡協議会



終

ご清聴ありがとうございました

